第140回　FDワークショップの実施報告

授業改善を目的とした1日のワークショップの実施報告

（日本教育工学会が実施するFD研修会第3回）

目　的：参加者が実践を見直し改善を行うこと

期　間：1日（2012年2月20日）

参加者：高等教育に従事する教員を中心に計29名

参加のための事前準備：

担当する授業のシラバスや授業資料（スライド・プリント・板書ノートなど）

最終レポート内容（最終課題）：セミナーでの内容を振り返り，そこで学んだことをまとめて自分自身の授業改善に活かすアクションプランとしてまとめる。

最終レポート提出者は11名，学会より認定書が発行された

ワークショップスケジュール　／　作成したワークシート　／

ワークシートと最終レポートの内容　／　レポート分析

関連発表：

ランチョン第117話「大学授業設計の点検ワークシート」の提案（http://cvs.ield.kumamoto-u.ac.jp/wpk/?p=1573）

根本 淳子・鈴木 克明（2012.9）「FDワークワークショップ実践報告-デザイン力向上の支援を目指して-」日本教育工学会第28回全国大会（長崎大学）発表論文集967-968

©2012 Junko Nemoto

ワークショップスケジュール

＜午前＞ 授業のデザインに関する問題意識の明確化と情報・課題の共有	時間 （分）
- 導入＋最終レポート合格基準の確認 [全体]	10
- 持ちこんだ課題についての議論　[個人＋グループ]	60
- 研究キーワードについての議論 [個人＋グループ]	20
- IDの前提についての議論　[個人＋グループ]	30
＜午後＞ 最終レポートを意識した授業分析と改善案の検討	分
- ワークシートへの書き込み　[ペア]	40
- 資料を用いたワークシートの見直し（1）（目標と評価）　[ペア]	40
- 資料を用いたワークシートの見直し（2）（方法）　[ペア]	40
- ペアワーク事例報告[グ]＋　リフレクション[個人]	80
- リフレクション [全体] ＋ Q&A	30

©2012 Junko Nemoto

第117話「大学授業設計の点検ワークシート」の提案

- 日本教育工学会FDセミナー(2012.2.20.開催)で使うために開発中(未使用につき、まだ危険な状態です)
- 点検項目は次の6＋2つ:まず記述式(次にチェックリスト式?)
  1. 誰に何を教えようとしているか(受講者数含む)
  2. それは何故か(前提・後続科目の有無を含む)
  3. どうやって教えているか(授業ルーチン含む)
  4. それは何故か(講義をやめる可能性含む)
  5. 単位取得の要件は何か(最終試験をやめる可能性含む)
  6. それは科目の目標と合致しているか(その理由含む)
  7. 続けたい点は何か
  8. 変えたい点は何か

- これまでの類似の試みに、企業向けの研修設計の視点ワークシート(2011)・OPTIMALモデル(2008)・IDの5視点(2005)・教材改善のためのチェックリスト(2002)などがありましたっけ

•こちらから

•http://cvs.ield.kumamoto-u.ac.jp/wpk/?p=1573

©2012 鈴木克明

ワークシートと最終レポートの内容

1）自分自身が担当する科目等についての現状分析が，「大学授業設計の視点ワークシート」の全項目を網羅した形で述べられていること．

＜点検ワークシートの項目＞

（1）科目名

（2）誰に何を教えようとしているか
（受講者数・同科目他担当教員の有無を含む）
（3）それは何故か（前提・後続科目の有無を含む）
目標

（4）どうやって教えているか（授業ルーチン含む）
（5）それは何故か（講義をやめる可能性とその理由を含む）
方法

（6）単位取得の要件は何か
（最終試験をやめる可能性とその理由を含む）
（7）それは科目の目標と合致しているか（その理由含む）
評価

（8）続けたい点は何か（セミナー当日に考えたこと：（10）と同じでなくて良い）
（9）変えたい点は何か（セミナー当日に考えたこと：（11）と同じでなくて良い）

対応

2）1）で扱った科目について，行動計画（アクションプラン）が以下の全項目を含んだ形で述べられていること．

（10）継続しようと思うこと（2つ以上）とそれぞれの理由
（セミナーで学んだことが反映されていることを期待する）
（11）変更しようと思うこと（2つ以上）とそれぞれの理由
（セミナーで学んだことが反映されていることを期待する）
（12）セミナー省察：収穫だと思ったこと3つ
（内容は不問，自己の優先順位によるトップ3を書くこと）
（13）【添付資料】改訂前後のシラバス（案）
（添付がなくても不合格にはならないが添付を推奨する）
（14）その他：レポートをまとめる上で必要だと判断した事項についての説明や資料（任意）

レポートの着眼点は，点検ワークシートの主要3要素「目標」，「方法」，「評価」，とそれらに当てはまらない「その他」に分類した．

•→拡大

•→拡大

1）自分自身が担当する科目等についての現状分析が，「大学授業設計の視点ワークシート」の全項目を網羅した形で述べられていること．

＜点検ワークシートの項目＞

（1）科目名

（2）誰に何を教えようとしているか
（受講者数・同科目他担当教員の有無を含む）
（3）それは何故か（前提・後続科目の有無を含む）
目標

（4）どうやって教えているか（授業ルーチン含む）
（5）それは何故か（講義をやめる可能性とその理由を含む）
方法

（6）単位取得の要件は何か
（最終試験をやめる可能性とその理由を含む）
（7）それは科目の目標と合致しているか（その理由含む）
評価

（8）続けたい点は何か（セミナー当日に考えたこと：（10）と同じでなくて良い）

（9）変えたい点は何か（セミナー当日に考えたこと：（11）と同じでなくて良い）

対応

2）1）で扱った科目に
だ形で述べられている

（10）継続しようと
（セミナーで学
（11）変更しようと
（セミナーで学
（12）セミナー省察
（内容は不問，
（13）【添付資料】
（添付がなくて
（14）その他：レポ
や資料（任意）

レポートの着眼
「評価」，とそれ

大学授業設計の視点

目標

方法

む）

評価

）

対応

と同じでなくて良い）

と同じでなくて良い）

2）1）で扱った科目について，行動計画（アクションプラン）が以下の全項目を含んだ形で述べられていること．

（10）継続しようと思うこと（2つ以上）とそれぞれの理由
（セミナーで学んだことが反映されていることを期待する）

（11）変更しようと思うこと（2つ以上）とそれぞれの理由
（セミナーで学んだことが反映されていることを期待する）

（12）セミナー省察：収穫だと思ったこと3つ
（内容は不問，自己の優先順位によるトップ3を書くこと）

（13）【添付資料】改訂前後のシラバス（案）
（添付がなくても不合格にはならないが添付を推奨する）

（14）その他：レポートをまとめる上で必要だと判断した事項についての説明や資料（任意）

レポートの着眼点は，点検ワークシートの主要3要素「目標」，「方法」，「評価」，とそれらに当てはまらない「その他」に分類した．

レポート分析（全体）

- 目標と評価の整合性について検討することの重要性や，それを踏まえた設計など，ワークショップで実施者が意図した成果が表れていることを確認できた．
- FD活動には，自分の実践に向き合う個人活動と併せて，仲間と話し合うことや他者のアイディアや意見を聞くことで考えを整理し，各実践が有する課題の解決策を探ることが重要であることも明らかになった．
- 今後の課題として，開発したワークシートの改善が必要であることも示唆された

項目（時期）	目標	評価	方法	その他	合計
変えたい点（セミナー開始時）	1	3	20	1	25
変更したい点（レポート提出時）	6	16	19	3	44
３つの収穫（レポート提出時）	3	2	16	33	54
指摘したこと（レポート提出後）	1	15	12	11	39

©2012 Junko Nemoto

レポート分析（詳細）

- セミナー開始時→「方法」（20人）
- レポート提出時→「目標（6人）」,「評価（16人）」に増加
  「目標」:「学生に目標を明示する（3名）」と「目標を変更・見直す（3名）」
  「評価」:「評価全体を見直す（7名）」,「振り返りの場を追加・改善する（5名）」
  など

- 「3つの収穫」→「その他」に関する意見が最も多かった
  「IDの手法やその魅力（6人）」
  「他者のシラバスや実践を知ることができた（4名）」
  参加者と議論できたことで「客観的に自分の実践を見ることができた（2人）」
  「アドバイスやアイディアを得ることができた（3人）」 など

©2012 Junko Nemoto

レポート分析（詳細）

- 「指摘したこと」には，
  - ・目標に関する指摘（1名）
  - ・評価に関する指摘（15名）

- セミナー開始時と終了後のレポートを比較→セミナー開始より具体的な方法が書かれているレポートが増加

【例】「変えたいこと」（開始時）「学生による演習問題の解説」

↓

「変更したいこと」（最終レポート）

– 「前回の演習で扱った問題の解説を学生が行い，学生の解説に関して質疑応答させ，そのあと問題を解いて最後に模範解答を配布する」という改善案を，ワークショップで得られた知識やアイディアを踏まえて提案